

1 研究主題

学ぶ楽しさを味わい、自分の思いを表現する西与賀っ子の育成

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領より

現行の学習指導要領では、子供たちに「生きる力」を育むために必要な資質・能力として「知識及び技能」「思考力・表現力・判断力など」「学びに向かう力、人間性など」の3つを掲げている。また、これらの資質・能力を育むために「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を重視した授業改善を求め、その視点として、一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい」と言える授業にすること、見通しをもって粘り強く取り組む力が身に付く授業にすること、周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業にすること、自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業にすることなどを挙げている。



(2) 学校目標より

本校の学校目標は、「自ら学び、共に生きる西与賀っ子の育成」である。「明るく共生する子ども」「かしこく創造する子ども」「たくましく伸張する子ども」を目指す子ども像として掲げ、教育課程を実践していく。校内研究では、この学校教育目標を具現化できるように、全ての職員が連携し、子供たちが意欲的に学びに向かう授業作りや、学ぶ集団を作る学級経営の在り方に迫っていきたい。

(3) 本校の子供の実態

令和2年度より「問い続ける西与賀っ子—問いから始まる学びの創造—」を全体研究主題に掲げ、自分事として学習を捉え、自分の意志に基づいて学びに向かう子供の育成を目指してきた。5教科等を通した「問いから学びを創る力」を育成するために、各教科における「問いや振り返りの言語化」と「各教科の見方・考え方」を中心に据え、授業実践を積み重ねてきた。研究の成果として、多くの子供が自分で「問い」を立ててから学習できたと感じられるようになったことが挙げられる。また、「問い」という学習用語が徐々に定着し、教科の垣根を越えて、「どうして?」と思ったことを大切に、考えたり調べたりしようとする子供の姿が多くあった。CRTの結果にも「自己調整しようとする態度」は他の項目に比べ、全国平均との差が少なく、少しずつ自己調整しようとする態度が身に付いてきていると考えられる。

一方で、課題として、教科に対する興味・関心が低いことや教科に対する自信が低いこと、自分が思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことに苦手意識があることも明らかになった。県の学習状況調査の結果では、算数科は4年生以上の全ての学年で県の平均を下回っており、特に相手意識をもって話したり、書いたりすることや友達の意見を聞いて、なぜそうなるのか理由を説明したり、計算の仕方を説明したりすることに苦手意識が見られた。CRT(算数)の結果からは、情報活用、言語能力などの資質・能力の面で、ほとんどの学年が全国平均に比べてマイナスであることが明らかになり、基礎的な知識及び技能の定着に課題が見られた。また、態度面では、教科への興味・関心、粘り強く進める態度が特に低い結果となっていた。

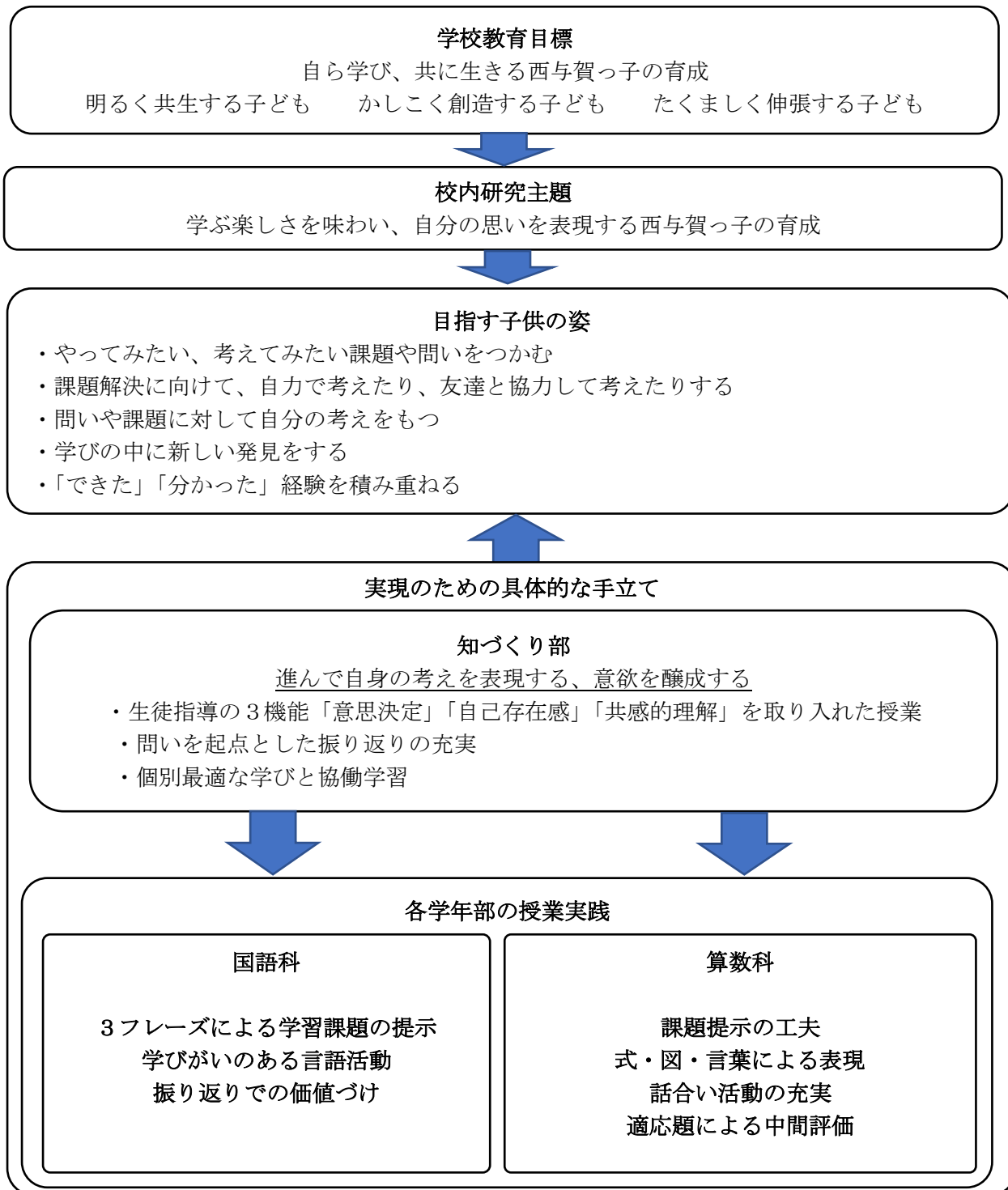
以上のことから、子供たちが教科に対する興味や関心を高め、学ぶ楽しさを味わったり、自分の思いを表現し他者と伝え合うことで自分の考えが広がったり深まったりすることのよさを味わったりして主体的に学んでいくことができるよう、本主題を設定した。

3 研究の構想

(1) 研究のねらい






国語科、算数科の授業研究を中心として、「主体的で対話的で深い学び」の視点での授業改善を行い、「学ぶ楽しさを味わい、自分の思いを表現する子供」の育成をねらう。

(2) 研究の全体構想図



4 研究の内容

本校における「学ぶ楽しさを味わい、自分の思いを表現する子供」とは、課題解決に向けて見通しをもち、考えることを楽しむ姿、他者に伝えるために自分の考えをもち、書いたり、話したりしようとする姿である。

<p>② 問いをもち、課題への関心を高める。</p>	<p>① 見通しをもって粘り強く考える。</p>	<p>③ 問いに対して自分の考えをもつ</p>
 <p>なんでだろう？ どうしたらいいかな？</p>	 <p>こんなことができるようになればいいんだな。がんばるぞ。</p>	 <p>こうだと思うな。</p>
<p>④ 友達の考えをきき、新たな発見をする。</p>	<p>③ 自分の学びの価値に気づき、次の学習に生かす。</p>	
 <p>〇〇さんとここはちがったけど、ここは同じだ。〇〇さんのおかげでわかったぞ。</p>	 <p>こんなことが分かったぞ。できるようになったぞ。こうすればいいんだ。</p>	

今年度重点的に取り組むこと


- ① 「どうしてだろう」「やってみたい」と思う課題を設定し、提示する。
- ② 1時間、一単元の見通し（時間・付ける力）を示しながら、児童と目指す姿を共有する。
- ③ 学んだことを表現する活動を取り入れる。
- ④ 生徒指導の3機能「自己決定」「自己存在感」「共感的理解」を取り入れた授業や学習環境を作る。

授業の中でしていくこと

◇課題意識を高める

○学習課題の設定を工夫し、子供から問いや思いを引き出す


- ・実生活や実社会との関わりがある課題
- ・これまでに学んだことだけでは、解決できない課題
- ・実際に体験して感じた疑問から見いだした課題
- ・1人1人の考えのずれから見いだした課題



どうしてかな？調べてみたいな。
やってみたいな！早く考えたいな！


○課題を明確にする

教師側からも、子供たちに「なぜ」「どうして」と問うことにより、何を解決しなければいけないのかを明確にし、すべての子供が課題解決に向けて、意欲的に取り組めるようにする。授業の導入部分だけでなく、自力解決の時間や話合う時間などにも、問いかけを大切にすることで、課題意識が持続できるようにする。



〇〇になると思う。

う〜ん…。



どうしてそう思いましたか。
なぜ、〇〇と考えたのですか。

では、なぜ〇〇になるのか説明できるようになりましょう。

○何を学習するのか、何ができるようになればよいかの「見通し」

どのような力を付ける学習なのか、そのために何をするのか、何ができればその力が付いたといえるかを具体的に示し、子供と目指す姿を共有する。目標を明確にすることで、自分がその目標を達成できたのかどうか子供も自己評価することができ、達成感を味わったり次に向けての自身の課題を見つけたりしやすくする。

○どのくらいの時間をかけて学ぶのかの「見通し」

単元全体または、1時間の中で、どのくらいの時間を使うのか時間の見通しをもたせることで、子供も何をする時間なのかが分かり、教師も何のためにその学習活動を取り入れるのかを明確にできるようにする。

○どのように解決するのかの「見通し」

子供の理解の状況に応じてこれまでに学習したことを思い出させたり、何を手がかりにして考えるのかヒントを出したりする。「考えたい」とは思っているものの、そのきっかけがつかめずに思考が停止してしまう子供がいるので、見通しがもっているのかを見取るようにする。

◇自分の思いや考えを表現させる

○自分の考えをもたせる

問いや課題に対して自分なりの考えをもたせる。言葉で説明できないときには、選択させたり、続きを考えさせたりするなど、自己決定する場面を取り入れる。

○目的に応じて自分の思いや考えを表現したり、相手に伝えさせたりする

- ・「書く活動」…自分の考えを整理するため、自分の考えを相手に伝えるため
「キーワードを使って書く」、「自分の考えとその理由を書く」など書く内容や条件を明確にする。
- ・「話し合う活動」…自分の考えを相手に伝えるため、多様な考えに触れるため、比較して共通点や相違点を整理するため。「何のために話し合うのか」「どのように話し合うのか」「何分で話し合うのか」など話し合う目的や方法を明確にする。

◇話し合う活動を充実させる

○発言しやすい学級の風土作り

話し合う活動では、互いの考えを出し合い、認め合う中で、比較したり、考えの幅を広げたりすることができる。そのために、安心して話せる雰囲気を作ることが大切である。自分と違う考えから学ぼうとする聞き手の態度を育てていく。また、分からないときに友達に「教えて」と言ったり、困っている友達に教えたりする中で、共感的理解、自己存在感を味わわせ、学び合う集団を作っていく。

○話し合いを活性化させるための言葉集め

話し合いを通して、互いの考えを比較する中で、新しい発見があり、自分の考えが深まったり、広まったりする。話し合いを意味あるものにするためには、どのような言葉を使うかが大切になる。子供たちにとって、表現力を高めるきっかけになるよう、使う言葉を提示したり、子供たちの言葉からよい言葉を集めたりする。また、教師がかける言葉も子供たちが思考するきっかけになるよう、目的に応じて使い分ける。

◇振り返りを通して「できた」「分かった」自分を価値付けさせる。

○振り返りの観点を示す

振り返りによって、学習のめあてを達成できた達成感を味わわせたり、学んだことを言葉で表現させたり、次の学習での自分のめあてにつなげさせたりすることができる。学習内容の理解を確認するか、自分の学習への取り組み方を振り返らせるのかなど、目的に合わせて振り返りの観点を示すように

5 研究の方法

(1) 研究組織

各学年のメンバーを国語科・算数科に分けた教科部を作り、学校全体で各教科で目指す子供の姿を授業で見られる具体的な姿で共有できるようにすると共に、系統性を持たせた指導ができるようにする。また、学年を低学年部・中学年部・高学年部・特別支援部に分けた授業研究部を作り、学年部で学年の子供の実態に合わせた国語科・算数科の教材研究できるようにする。その際、実践したことの結果をもとに分析を行い、日々の授業改善に生かすようにする。

教科部

- ☆各教科で目指す子供の姿を検討し、授業の方向性を共通理解する。
- ☆各学年で取り組んでいることやその結果を共有し、各学年の指導に生かす。

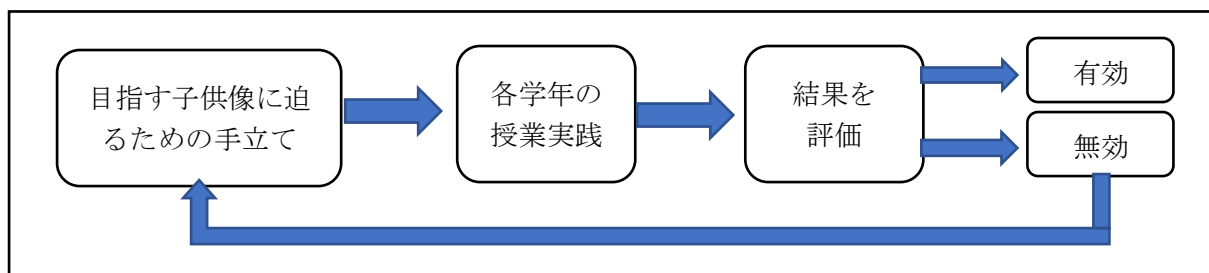
授業研究部

- ☆教材研究をしたり、子供の到達状況を評価したりしながら、授業改善を行う。

(2) 授業改善に向けて

授業実践について

目指す子供像に迫るために、国語科、算数科を中心とした授業実践を行い、子供たちに付けた力が付いているかを評価する。どのような手立てが有効であったのか、有効でなかったのかを明らかにし、授業改善に生かす。



研究授業について

研究授業においても同様に、子供たちの実態から、各単元の学習の中で、目指す子供像に迫るために、どのような手立てを取るのかを明確にした指導案を作成する。授業の参観においては、子供たちの学習中の言動を見取り、なぜそのような言動になったのかのその要因を探る。子供たちの言動の要因に目を向けることで、子供たちの資質・能力育成のために何が有効だったか、何が有効でなかったかを検討する。さらにその改善策を考えることで、次の授業に生かせるようにする。

6 研究計画

- ・ 全校公開研究会・・・事後研（全職員）あり
- ・ 部内授業研究会・・・全校公開研究会をしない部員は各1本、事後研（部内）あり
- ・ 教科部会・授業研究部会・・・毎月第2火曜実施、日々の授業について話し合う（年8回程度）
- ・ 授業づくり・・・8月のお盆休み明けに2日間
- ・ 全体研修会・・・研究の進め方や、授業実践について全体で話し合う（年5回程度）
- ・ 研究推進委員会・・・研究の方針や、研究計画について代表で話し合う（年5回程度）